

# 歴史人物誌

このコーナーでは、町にゆかりのある歴史人物とその結び付きなどをシリーズで紹介していきます。執筆者は町史編さん委員の佐藤仁志さん（豊間根・六八）です。

荒川氏は、幕府のキリシタン迫害から逃れ、相模の国から荒川村に落ち来たといわれる。

初代政近、二代政定で、三代政矩の時、荒川村の隠れキリシタンが発覚し、寛永二十年（一六四三）から翌年にかけて、政矩以下十五名が捕らえられ処刑された。この時、政矩の子、四代政



山田浦海岸之図（大槌町・佐々木亮平氏所蔵）

## 『金沢御山大盛之図』を描いた

絵師 佐々木 藍田

十一代政継（政右エ門）の頃、山田町（川向）に移り住んだ。政継の弟清助（政太郎）は、亨和の頃（一八〇一）、商標を荒川屋、号を鐵梅と称し染物業を営んでいた。藍田は、本名を政吉（生年不明）といった。染物業を営む父清助の跡を継ぎ、文政十一年（一八二八）頃、佐々木藍田を名乗った。藍田は、師を持たず独学で絵を修得した。

金山を訪れた。この時、藍田の描いた「金沢御山大盛之図」が役人に提出された。天保十五年（一八四四）、藍田は京都、伊勢への旅に出た。総持寺、永平寺に参詣、琵琶湖畔の旧跡に遊び、京都に入り応挙の襖絵をスケッチ。大阪天王寺、高野山、伊勢神宮を参詣、スケッチした。嘉永七年（一八五四）頃、藍田は狩野休田の達磨を模写している。この頃、金沢村での染物業の営業権を入手、その後金沢村に移り住んだ。

天保四年（一八三三）頃、盛岡の画人沼宮内蘭溪や田口森蔭の絵の模写、葛飾北斎の「北斎漫画」、尾形光琳の「光琳漫画」などを模写、また、浮世絵に挑戦、画人川口月嶺、丸山応挙などの絵を模写した。

天保九年（一八三八）幕府は諸藩の金山調査を実施、同十年二月幕府役人渡辺角太夫外六人が金沢田浦海岸之図「金沢村絵図」を描いた。また、山田をはじめ大槌や釜石、宮古から絵の注文を受け、蓬萊絵をよく描いた。屏風絵や襖絵も描いた。染師、絵師として安定した藍田は文化人として俳諧や書にも親しんだ。藍田は『金沢御山大盛之図』（金沢の佐々木家、岩手大学、早稲田大学、東京大学工学部に所蔵）をはじめ数々の作品、多くの染め物の型紙を遺し慶応元年（一八六五）没した。

## 町長室から

冷夏のままお盆が過ぎ、ぐずついた天候が続いて二十日盆も終わりました。新聞は東北地方の冷害の不安を伝えていきます。このコラムでは三年続けて冷夏のことを書いてしまいました。ヨーロッパでは猛暑による犠牲者が出たようですが、一体地球に何が起こっているのでしょうか。心配です。

七月末から八月四日まで、日本ボイススカウト横浜第五十八団の皆さん、引率者を含め六十数名が当町に滞在しました。私が昨年の「ふる里山田同郷の会」総会に出席した際、高校時代の同級生から紹介され実現したもので、山田の大自然と人情を十分に味わっていただいたものと思います。特に、オランダ島での体験は強く印象に残ったようです。団員長の方が、今度は家族で必ず訪問します——と私に約束して帰りました。山田町の応援団のネットワークが、また増えたと思います。

山田町長 沼崎喜一